

自傷行為に至る原因の考察 ~ 家族同時内観を通して ~ 内観療法は認知行動療法の側面が強い

奥村弓恵¹⁾ 伊藤恵理¹⁾ 小田香織²⁾ 太田耕平³⁾

1) 心理士 2) 看護師 3) 医師

医療法人 耕仁会 札幌太田病院 内観療法課

- 1. はじめに:** 当院では、平成 12 年 ~ 自傷、自殺願望者が増加し、病棟内内観療法、家族同時内観療法(以下本法と略す)により、治療効果を高めている。今回自傷を呈した思春期症 3 例の治療から、行為に至る原因と家族関係を検討する。
- 2. 症例:** A 氏 14 歳女兒。主病名: 行為障害。主訴: 不登校、飲酒、喫煙、自傷。家族: 継父、実母、本人、妹弟。中学入学後成績低下、部活退部。喫煙、飲酒、暴力出現。剃刀で手首に長さ 1cm の自傷痕数本あり。 B 氏 15 歳女兒。主病名: 不登校。主訴: 不登校。家族: 両親と本人。高校進学後、父の転勤で転校したが、2 ヶ月の不登校となった。左手首に彫刻刀で長さ 2cm の自傷痕 6 本あり。 C 氏 16 歳女兒。主病名: 行為障害。主訴: 家庭内暴力、感情抑制困難。家族: 両親、姉、本人。中学入学後、教師や両親に暴言暴力。カッターで手首の自傷を繰り返す。中学 3 年時、見知らぬ男性から性的被害を受けた。高校進学後、教師と揉め自主退学。
- 3. 治療経過:** 病棟内内観療法修了後、3 例に本法実施。A 氏は自傷の理由を「父は仕事、母は妹弟の世話で忙しく会話少なかった。死にたいと思ってリストカットした」と話した。B 氏は「父母の仲が悪く、泣く母を見て行き場のない気持ちを手にぶつけた」と話した。C 氏は「寂しい気持ちに気付いて欲しくて、リストカットや暴力になった」と語った。いずれの親も「子供と向き合う時間が少なすぎた」と反省していた。
- 4. 考察:** 3 例は、親との疎通欠如、孤独、不安、更に目標や自尊心の喪失、うつ気分から自傷に至ったと推測される。両親の不和や親子関係の拒否・希薄さは、子の心を不安定にする。親の愛情不足から自己否定が強まり、生きる意味を失い、自傷や非行に繋がる。今回の 3 例から、根本的な治癒には家族相互の認知行動の修復が重要であり、本法は認知行動療法として有効であることを再確認した。